

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 12 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	2172600591		
法人名	社会福祉法人 樹心会		
事業所名	グループホーム 揖斐川げんき村		
所在地	岐阜県揖斐川郡揖斐川町志津山 3 7 8 番地 (電話) 0 5 8 5 - 2 1 - 3 5 1 1		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと		
所在地	各務原市三井北町 3 丁目 7 番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年12月12日	評価確定日	平成20年 1月15日

【情報提供票より】 (平成 19 年 11 月 1 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27 人	常勤 19 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	17.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	18,000～ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	円
	夕食	円	円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 11 月 26 日 現在)

利用者人数	27 名	男性 6 名	女性 21 名
要介護 1	8 名	要介護 2	6 名
要介護 3	4 名	要介護 4	6 名
要介護 5	3 名	要支援 2	名
年齢	平均 80.74 歳	最低 60 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野原クリニック、久保田歯科、揖斐厚生病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

揖斐川で行われる花火大会が望める高台の敷地内に作られた3つのユニットはそれぞれ独立しているが、行事等は一緒に行い、利用者は顔馴染みの職員と共にゆったりと日々の暮らしをしている。管理者の情熱と受けホーム長を中心に質の向上を目指し切磋琢磨している職員の努力が利用者の穏やかな表情から読みとれる。包括支援センターとの情報交換を通し、ホームの祭りや行事には地域内のボランティアも多く参加するなどホームが利用者にとって楽しみの場所になるよう様々な取り組みをしている。散歩時の外食や喫茶店での費用はホームの負担で行い、職員の意気を高め、より良いサービスにつなげて行きたいという熱意が感じられる。ホーム内で飼う動物の世話は利用者の心を癒す存在となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価の改善課題であったベッド柵に関してはすぐに取り外し、工夫をするなど即見直しと改善を実施し、評価結果は玄関に掲示してある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
重点項目②	管理者及び職員が評価を通して質の向上に取り組んでおり、挙がってきた課題についてはホーム全体か、各ユニットかを把握し、効率よく解決できる方向で対応するなど、利用者への影響を最小限にする工夫をしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
重点項目③	自治会区長・老人会・民生委員・包括支援センター・前所長・家族代表等が出席し、3ヶ月に1回、開催している。包括支援センターの会議には管理者が参加しており、ホームの空室や現状を知らせるなど、行政との多面的な協力体制と連携ができています。他ホームとも交流研修を行い、同業者との共助に努力しています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
重点項目④	年2回の家族会、介護計画時の家族アンケートの実施や訪問時に意見・要望を聞くなど取り組んでいる。利用者には第三者委員による面談も行い、気軽に、かつ、活発に意見が出せる体制作りがされている。家族に毎月送るホーム便りには四季おりおりの行事や写真も載せ、利用者と離れて暮らしていても家族であるという関係性を継続する配慮ができています。
	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	自治会に加入し、地域道路の草刈りをしたり地域の祭りにはホームのコーナーを設けたり、ホーム主催のバーベキュー・運動会・餅つきには多くの住民が参加している。利用者の楽しみの1つである散歩では住民から声をかけられ、野菜をもらうなど顔なじみになっている。ホームの祭りには近くの高校の吹奏楽部が訪れ、会話や体操を楽しめる場所にもなっている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人としての尊厳」という理念を基にし、人命尊重・人権擁護・個人の要望・関係機関との連携・豊かな人間性など、人としての尊厳を大切に、地域の中で暮らせるよう実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月行うホーム会議で確認し、職員は名札の裏側に書いてある理念を口ずさみ、常に意識し、確認し合いながらケアにあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域道路の草刈に参加したり、ホーム主催のバーベキュー・餅つきなどには地域の住民も参加したり、地元の傾聴ボランティアも毎週来所するなど、地域に根付いた付き合いをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の改善課題であったベッド柵に関してはすぐに取り外し、工夫をするなど即見直しと改善を実施し、評価結果は玄関に掲示してある。評価を通してより良いホームへと、質の向上を目指し取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、自治会区長・民生委員・包括支援センター・前所長・家族代表など多くの参加者がある。内容については、会議内で出た意見・要望など議事録も作成し、サービスの向上につなげる課題の取り組みに活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が出席する包括支援センターの会議ではこまめにホームの内容を説明し、空室状況や運営推進会議の進捗状況などを報告するなど、地域内での交流と情報交換を行い、包括支援センターや行政の協力を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の状況や体調を説明し、意見を聞いている。請求書・ホーム便りと共に家族に手渡される金銭出納簿は、家族の押印により確認をしている。便りには利用者の状況も添え書きして家族の安心感を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3名の第三者委員による利用者全員の面談を年2回行っており、必要な内容は職員会議でも再検討している。意見箱・家族アンケートも実施し、得られた意見を運営に反映できるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	行事やイベントは、3ユニット間で同時に行うことから利用者は全職員と顔なじみになっており、異動に関しては引継ぎをしっかりと進め、利用者が不安にならないよう、また、混乱しないように配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の取り組みに関しては、研修参加を積極的に呼びかけ、費用の援助や勤務交代などの配慮をしている。研修の内容はホーム会議で報告され、職員間で共有されている。また、職員の休憩はその都度、利用者の様子を見ながら別室で休めるよう配慮をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加入し、他ホームとの相互見学を行っている。開所予定ホームの職員研修にも場所の提供をしており、いろいろな意見や経験を通し、質の向上を目指す取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1～2週間の体験入居や、ホームの行事・レクリエーションに誘い、自然にホームに馴染んで入居できるよう支援している。また、入居の前には本人や家族から詳細な聞き取りを行い、入居時はその内容に沿って利用できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が発した言葉や日々の生活の中から、その人らしい生活リズムを把握し、ケアに活かせるよう職員間で共有している。落ち葉拾いや下膳を自発的に行ったり、リビングで掃除機をかけるなど、見守る職員と一緒に生活している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向は、入居前の人生歴や生活歴・フェースシートの活用によって、日々の支援に結びつけ、ケアの中での気づきもユニットリーダーにその都度報告し、共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成の前には家族にアンケートを取り、その意見を採り入れ、毎月、担当職員の気づきも採り入れた介護計画の検討を職員会議内で行い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとの定期的に介護計画を作成し、毎月モニタリングを行い、必要時・急変時には随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が希望するかかりつけ歯科医への送迎や買い物の同行、故郷への墓参り等、利用者個々の要望に応え、ホームは柔軟なサービスの提供に取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は週1回、重度の場合は週2回、かかりつけ医が往診している。利用者が望む遠くの病院には家族や職員が同行して通院している。緊急時には医療機関と連携することで、いつでも対応できる体制も確立している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までに看取りの事例はないが、ターミナルケアの説明書や重度化及び看取りに関する指針もできており、必要時や家族からの変更の申し入れ時には家族・医師・ホーム長・ケアマネジャー・管理者と話し合いを重ね、本人は勿論のこと、家族も不安にならないよう終末期のあり方を検討をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を守るという理念の通り、言葉がけなど利用者に対してはさりげないケアを心掛け、通信に載せる顔写真の取り扱いに配慮し、家族の面会簿は個人カード方式を用いるなど、プライバシーの徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室でのんびり過ごす人、洗濯物を取り込む人、それぞれが自分のペースで生活をしている。また、食事時は全員が手を合わせて「頂きます、ごちそう様でした」と声を揃えるなど、その場その場で個別と集団の行動を使い分けて支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、好みの偏っている利用者には代替食品で楽しんでもらえる工夫をし、体調に応じてとろみを加えるなど配慮をしている。献立の作成や食材の買出しはユニットごとにそれぞれ行うため、特色のあるメニューとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に週3～4回行い、入浴の順番は表を壁に貼り出して平等に行っている。入浴が楽しみな利用者が多く、職員の配置に配慮しながら日々の入浴をゆっくり楽しめるよう、支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの裏手にある畑に、利用者が自分たちで野菜の種を蒔き、季節の野菜が収穫され、利用者の食欲を盛り上げている。また、利用者一人ひとりがパッチワークを作り、全員でひとつの大きな作品に仕上げ、リビングの壁に飾られていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は天候に合わせてほぼ毎日行い、その途中に住民から声を掛けられて野菜をもらったり、外食や喫茶店にも月1～2回は行っている。年1回の日帰り旅行は利用者の大きな楽しみとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則として玄関・居室の施錠は、職員の見守りを重視して施錠しない方向になっており、家族が訪問しやすい体制となっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回の避難訓練を行い、第1避難場所、第2避難場所も決められている。地域の特別養護老人ホームと連携し、地域内での協力体制もできている。消防署による救急法は年1回行われ、地域の病院の勉強会にも出向くなど、緊急時の対応を常に心掛けている。	○	行われている訓練は、火災を想定したものが中心であることから、さらには地震等の災害についても対応の検討が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアマネジャーが管理栄養士であり、利用者の栄養摂取には気を配り、食事の残さいも記入され、時々栄養バランスをチェックしている。利用者ごとの1日に必要な水分補給量を把握し、支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井は吹き抜けになっており、天窓から明るい日差しが入ってくる。広いリビングにはソファが2つ置かれ、廊下には不快な匂いもない。また、2匹の犬が飼われているユニット、金魚を飼っているユニットがあり、動物の世話は利用者自身が行い、家族と離れて暮らす利用者の心を和らげている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベッド・ポータブルトイレはホーム側で用意し、利用者宅からは、馴染みのタンスや机が持ち込まれている。家族や孫の写真が飾ってあったり、手作り品が壁に貼られるなど、個性があり、使いやすく、ホッとできる居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。